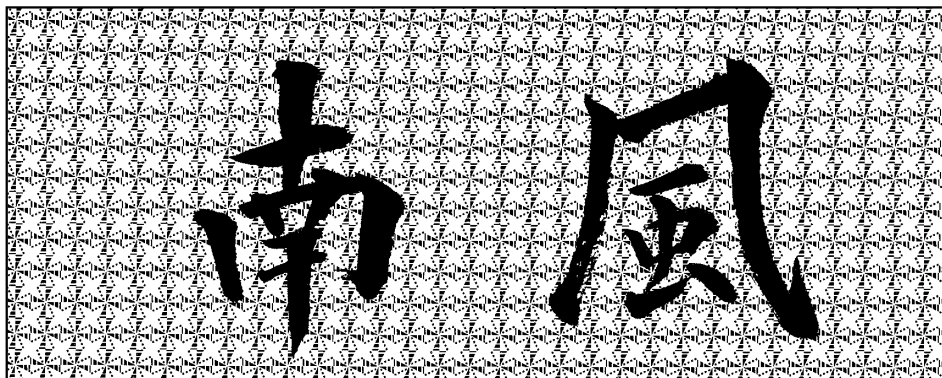




南風 (ふえー) Vol.21 No.2

＜主な内容＞

- ・新会長のあいさつ
- ・2期生の近況
- ・研修医1年目の近況(27期生)
- ・田中重徳先生の追悼
- ・同期会・支部だより
- ・学生だより



第21回琉球大学医学部医学科同窓会総会 ～総会開催の報告と会長就任のご挨拶～

琉球大学医学部医学科同窓会会長 蔵 下 要 (3期生)

同窓会会員の皆様、こんにちは。去る7月14日に行われました第21回琉球大学医学部医学科同窓会総会におきまして、第6代同窓会会長に就任いたしました第3期卒業の蔵下です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今年の総会、シンポジウム、懇親会には合わせて79名のご参加をいただきました。総会においては、最も大きな議案であった今年度からの新執行部の承認をいただきました。総会に続いて第7期生が企画しました「十人十色 多様な生き方を選ぶ～医師のワークライフバランスを考えて～」と題するシンポジウムが開催されました。卒後20年目にあたる卒業生が同窓会総会に合わせて講演会を企画するという形式はだいぶ定着してきた感があります。今年はシンポジウム形式という新しい試みとなり、会場の参加者は3人のシンポジストの熱のこもった話に聞き入っておりました。引き続き行われた懇親会の席におきましては、琉球大学学長であります大城肇先生にご出席をいただきました。学長のこの懇親会へのご出席は医学部医学科同窓会創設以来初めてのことであります。また琉球大学同窓会副会長の仲門勇市先生にもご出席いただきました。お二人にこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。今回は多くの正会員、学生会員のご参加をいただき、世代を超えて、大変和やかな雰囲気の中で行われた懇親会であったように思います。更には今年の総会から初めて参加するという会員の姿もあり、今後の同窓会のつながりが更に広がることが期待できました。懇親会終了後には、7期生(卒後20年目)、12期生(卒後15年目)、17期生(卒後10年目)の同期会も執り行われています。私はこれまで歴代会長の下で長く副会長を勤めさせていただき、今回は懇親会の席で会長として初めてご挨拶をさせていただきましたが、副会長の時とは比べ物にならないほどの緊張感と責任の重さがひしひしと感じられ、大変身の引き締まる思いが致しました。

さて、琉球大学医学部医学科は昭和56年に第1期生

が入学して以来32年が経過し、平成25年3月の27期生の卒業をもって卒業生が2621名となりました。このうち約半数が県内でご活躍され、現在、沖縄県医師会会員の4割以上を占めるとされています。我々の同窓生が沖縄県の医療界の中で今後ますます重要な役割を担っていくものと思われます。

医学部教官の先生方の世代も代わりました。そんな中、医学部医学科の創設時に大変なご苦勞をなされた、初代医学部長の大鶴正満先生や初代病院長の小張一峰先生が語られていた「なぜ沖縄に医学部が作られ、琉球大学医学部は何をしなければならないか」という生の声を直接聞き、その思いを次世代に受け継ぐことの手助けができるのは我々のような初期の時代の同窓生だけになってきたのかもしれない。沖縄で医師を育成するという医学科創設時の目的を達しつつある今日、今後、琉大医学部は新たな方向性を持って進んでいくものと思われます。そのような中、同窓会の人材とネットワーク、そして会員の結束は、微力ではありますが、今後の母校の発展に必ず寄与できるものと信じております。

今回、新執行部の編成をするにあたっては、副会長に4期生の田名毅さん、5期生の屋良さとみさん、会計に10期生の平良民子さんに留任していただいたのに加えて、新たに6期生の崎間敦さん、12期生の玉城佑一郎さんに新副会長として入っていただくことができました。すべての年代に開かれた同窓会、より強い結束力を持った同窓会を目指して、役員や評議員の皆さんの力をお借りしながら頑張っていきたいと思っております。若輩者の会長ではありますが、今後とも同窓会会員の皆様のご指導、ご協力のほどをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

増田昌人前会長の「同窓会会長退任の挨拶」は次号へ掲載いたします。